

令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (5) 地域への文化発信の拠点となる取り組み
(6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 情報社会学部

申請組織長 役職名 情報社会学部学部長 氏名 羽成 隆司

統括責任者 役職名 教授 氏名 亀井 美穂子

課題名 音楽愛好家と教員・学部学生が協働する音楽イベントの実施による地域文化の醸成

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	亀井 美穂子	情報社会学部・教授	イベントの企画・運営・実施・全体の取りまとめ
	分担	宮下 十有	現代マネジメント学部・准教授	イベントの企画・運営・実施のサポート
	分担	谷口 功	情報社会学部・教授	イベントの企画・運営・実施のサポート

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本事業は、アマチュア音楽愛好家と本学の教員・学生とが協働し、星が丘キャンパスにて音楽イベントを企画・実施することにより、音楽による地域文化醸成の契機とすることが目的である。

本事業で協働したアマチュア音楽愛好家集団「おもちゃばこキネン合奏団」には、音楽を楽しみながら学び続ける 30 代～80 代の東海地域の市民約 30 名が所属し、プロの指揮者や演奏家の支援を受けながら様々な地域や保育園などで演奏会を行っている。初心者積極的に受け入れ支援していることや保育園での演奏を行っていること、また本学の卒業生や教員が所属していたことから、本事業での協働実施に至った。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

本事業では、2024 年 12 月 22 日に、「冬のコンサート」を開催し、幼い子どもも含めて一般に参加者を募った。本事業の特色と独創的な点は、以下の 3 点である。

- ・生涯にわたって音楽を楽しみながら学び続ける「音楽愛好家」を支援することで、地域のアマチュアが担う音楽文化・音楽文化の醸成につながる点。
- ・合奏団が実施してきた保育園の演奏会の経験を活かし、本学の幼稚園やこども園に通う幼い子どもも、楽しめるイベントとなった。多様な年齢の人々を対象とした豊かな音楽文化の形成を促す点。
- ・イベントの情報発信、運営、企画も含め、地域社会のデザインやイベントのデザインという情報社会学部の学びに深く関連しているため、学生もイベントに関われる場を設け、学生が社会とつながり、大学の学びを展開できる点。

3. 事業の成果（600字～800字程度で記述）

「おもちゃばこキネン合奏団」とは、8月以降、合奏団と事前の打ち合わせやリハーサルを重ね、2024年12月22日13時より、冬をテーマにした曲や、ムソルグスキー作曲「展覧会」やモンティ作曲「チャルダッシュ」などのクラシック音楽が1時間にわたり演奏された。

開催にあたっては、椙山女学園大学附属椙山こども園、椙山幼稚園、椙山小学校を通じて、保護者へのコンサート案内の協力をしていただくことができた。そして当日は、子ども園、幼稚園、小学校、卒業生とその家族、また学部の教員とその家族、地域住民の方々や合奏団のファンや支援者など、幼い子どもから高齢の方まで、想定していた100名を上回る約120名の来場があった。

演奏中、子どもたちが音楽とともに体を動かしたり楽器を弾く真似をしたりする姿も見られ、特に幼い子どもやその家族に気兼ねなく、様々な楽器の音色や音楽に触れる機会を設定することができた。職業、経験不問の幅広い年代で構成された合奏団の合奏は、洗練されたプロの音楽家とは異なる「音楽の良さ・楽しさ」を提示することができた。

演奏後、合奏団からは、「（音楽を専門としていない）大学・学部と協働して地域で演奏ができたことに対して可能性を感じた」や、「幼い子どもたちに音楽を届けることができて嬉しかった」などのコメントが寄せられ、今後も継続的な演奏の場として本学が期待されていることが確認できた。

またイベントの運営を学びたいとする学生が、開催をサポートすることを通して、実践的な学びの機会を設定することができた。

4. キーワード（本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載）

①音楽	②音楽愛好家	③地域連携	④文化醸成
⑤保育園	⑥幼児	⑦生涯学習	⑧参加型

5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

幼い子どもへの音楽提供に理解ある地域の音楽愛好家とのコンサート協働開催は、演奏者にとっても参加者にとって意味があり、地域で音楽を楽しむ場として、また音楽文化醸成の場としてデザインできる可能性を確認することができた。

今後の課題としては学生が、運営サポートだけでなくより様々な場面で協働する場を設定し、学生が文化の醸成に参画できるように支援することがあげられる。卒業生をはじめとする人生の先輩たちが演奏を楽しむ姿、生涯楽しく学び続ける姿に実際に接する機会は、学生にとっても、この先のキャリアを歩むにあたり、豊かな人生のあり方を考えるヒントとなることが期待されるため、学生のさらなる参加を促す事業に育てるため、本事業を今後も、継続的に開催することが不可欠であると考え。